

平成 19 年 10 月 11 日

各 位

会 社 名 : 富士精工株式会社  
代 表 者 名 : 取締役社長 森 誠  
コ ー ド 番 号 : 6 1 4 2 名 証 第 2 部  
問 合 先 : 常務取締役 鈴木 龍城  
T E L : 0 5 6 5 - 5 3 - 6 6 1 1

## 平成 20 年 2 月期中間および通期の業績予想修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえて、平成19年4月16日に公表した平成20年2月期（平成19年3月1日～平成20年2月29日）の業績予想を下記のとおり修正させていただきたく存じます。

### 記

#### 1. 平成20年2月期中間連結業績予想数値の修正（平成19年3月1日～平成19年8月31日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想（A）	9,480	-	700	380
今回修正予想（B）	9,604	378	569	267
増減額（B - A）	124	-	131	113
増減率（%）	1.3	-	18.7	29.7
前期実績(平成19年2月期中間)	9,832	631	739	257

#### 2. 平成20年2月期連結業績予想数値の修正（平成19年3月1日～平成20年2月29日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	20,130	-	1,660	950
今回修正予想（B）	19,890	1,090	1,460	710
増減額（B - A）	240	-	200	240
増減率（%）	1.2	-	12.0	25.3
前期実績(平成19年2月期)	19,748	1,037	1,309	764

### 3. 修正の理由

個別の業績予想につきましては、売上高・利益ともにほぼ初期計画どおり推移してまいりましたが、当社グループの海外連結子会社の利益計画が当初予想を大きく下回る見込みとなりました。

これは、輸入税制変更にともなう中国子会社の製造原価の高騰、固定費上昇にともなう韓国子会社の製造原価の高騰および韓国国内における価格競争の激化、アメリカ子会社におけるプロダクトミックスの変化（製品減少、商品増加）などによるものです。

このような状況のもと、各社とも原価低減活動などの対策を行ってまいりましたが、利益減少をカバーできず、当中間期における利益は当初予定を下回る見込みとなりました。

こうした現状や今後の市場動向等に鑑みて再検討いたしました結果、当初に計画した経常利益、中間（当期）純利益を達成することは困難であると判断し、中間期および通期の業績予想の下方修正を行うものです。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる結果となる可能性があります。

以 上